

### 第3章 札幌市の文化財

#### 1. 文化財の把握の方針

##### (1) 対象・把握の考え方について

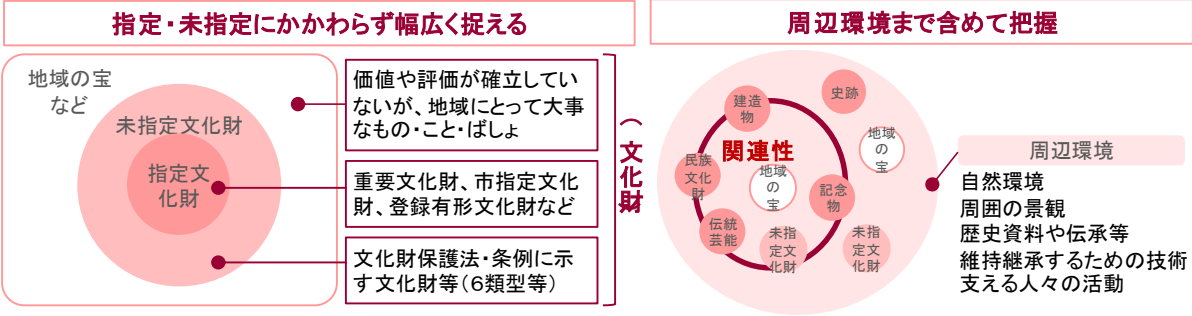
- 札幌市には文化財として指定・登録等がなされているもの以外にも貴重な文化財が多く存在している。
- それらが年月の経過とともに失われていっているにもかかわらず、その多くを把握できていない状況にある。
- これらについて都市を特徴づける貴重な財産として位置づけ、有効に活用しながら良好な状態で後世に継承していく必要がある。
- 一方で、国が示す「歴史文化基本構想」においては、地域の文化財の特性に応じて、既往の類型に捉われず、文化財を多角的な視点から見直すことや、有形・無形、指定・未指定にかかわらず、総合的に把握することが必要とされている。
- また、歴史文化基本構想にある「歴史文化」とは、文化財とそれに関わる様々な要素とが一体となったものを指しており、文化財をその周辺環境も含めて総合的に保存活用することとされている。
- 以上より、本構想における文化財の対象と把握の考え方を以下に整理する。

**◆対象**

- 札幌市に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず、**地域にとって大事なもの・失いたくないものなどを含めて**（※具体的な要件について要検討）幅広く捉える。また、本構想においては、『文化財』を、指定・登録等の有無や文化財保護法の類型にとられない、地域にとって大事なものなども含めた広義のものとして使用する。

**◆把握の考え方**

- 200万都市である札幌市には、多くの文化財が存在するため、**地域にとって大事なもの・失いたくないものを幅広く把握していくと同時に、札幌市らしさ・地域らしさを特に物語るものについては、積極的に把握に努めることとする。**
- 文化財把握の際には、周辺環境「自然環境」「周囲の景観」「歴史資料や伝承等」「維持継承するための技術」「文化財を支えている人々の活動」も含めて把握する。



※1 6類型：有形/無形/民俗/記念物/（文化的景観）/（伝統的建造物群）等：埋蔵文化財/（文化財の保存技術）  
（ ）は、札幌市において現時点で該当なし

## (2) 文化財の分類方法等

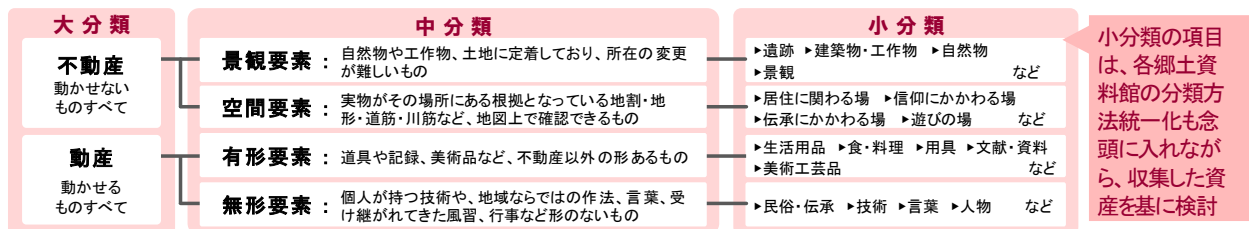
- ・幅広く「文化財」を捉えるため、これまでの6類型等も参考にしながら、総合的に把握整理できる新たな分類項目を設定する。
- ・リストの整理にあたっては、将来的なオープンデータ化、デジタルアーカイブ化等を考慮。
- ・データ利活用のしやすさや札幌の歴史や文化などの地域特性を考慮した項目を設定する。

### <参考：6類型等による文化財分類>

大分類:

有形文化財 / 無形文化財 / 民俗文化財 / 記念物 / 文化的景観 /  
伝統的建造物群 / 埋蔵文化財 / 文化財の保存技術 /

### <新たな文化財分類のイメージ>



将来的なオープンデータ化、データベース化を見据え、位置情報や調査報告書・台帳等とのつながりを明記

所有者や管理者・支える人をセットで登録

ID	名称	ふりがな	札幌の歴史文化資産の分類			員数	時代	年代	西暦	重要文化財	有形文化財登録	指定年月日	都道府県	所在地	保管施設名称	所有者名	管理団体	緯度	経度	キーワード	関連資料	出典	各分野固有の項目
			大分類	中分類	小分類																		
001	豊平館	ほうへいかん	不動産	景観要素	建築物・工作物	1	明治	明治13	1880	○		1964.5.26	北海道	.....	-	札幌市	...	...	...	...	...	...	...
002	開拓使文書	かいたくしふんしょ	動産	有形要素	文献・資料	7832	明治	-	-	○		2014.8.21	北海道	.....	札幌市公文書館	北海道	...	...	...	...	...	...	...

本業務において、データ利活用のしやすさや札幌の地域特性を考慮し設ける項目

**リスト項目の参考**

- ・国指定文化財等データベース
- ・国立公文書館デジタルアーカイブ
- ・東京国立博物館研究情報アーカイブス
- ・札幌市 等

**キーワード**

豊平川、雪、MEM、アイヌ文化、札幌軟石、屯田兵、開拓使、農学校、お雇い外国人、試験牧場、定山溪鉄道、路面電車、オリンピック、地下街、食、産業、商業、農業、市街地、学校 等

**各分野固有の項目**

- ◆建築物・工作物: 構造、形式、沿革 等
- ◆美術品 : 作者、寸法・重量、品質・形状 等
- ◆民俗文化財 : 保護団体名 等
- ◆記念物/◆景観: 面積 等

## 2. 調査の概要

### (1) これまでの文化財調査

(文化財調査)

	書籍名	著者・編者	発行年	備考
1	市内文化財基本調査書	教育委員会社会教育課	1970年(S45)	全分類網羅 548 件の名称リスト
2	市内文化財基本調査 工作物資料	教育委員会社会教育課	1970年(S45)	工作物
3	札幌市文化財基礎調査 郷土史跡	教育委員会社会教育課	1970年(S45)	郷土資料
4	札幌市文化財基礎調査 工作物資料			碑
5	工作物(文化財基本調査)	札幌市教育委員会	1972年(S47)	工作物調査カード(石像など)
6	工作物(文化財基本調査)	札幌市教育委員会	1972年(S47)	工作物調査カード(石像など)
8	文化財調査報告	札幌市	1984年(S59)	要望を受け調査した記録など市外資料もあり
9	文化財調査報告 2	札幌市	1984年(S59)	要望を受け調査した記録など市外資料もあり
10	文化財ノート 1	札幌市	1989年(H1)	
13	歴史的建造物基礎調査綴り	札幌市	1996年(H8)	
7	郷土資料館収蔵品一覧	札幌市	2000年(H12)	
12	登録文化財候補建造物基礎調査報告書	札幌市	2003年(H15)	
14	近代和風建築総合調査(リスト)		2006年(H18)	調査は H16-18
11	歴史的石造等建造物所在一覧(調査報告)	札幌市	2007年(H19)	
15	埋蔵文化財調査報告書一式			
16	歴史的資産活用推進事業に係る調査(H27年度)	札幌市	2016年(H28) 3月	建造物、調査手法等
17	歴史的資産活用推進事業に係る調査(H28年度)	札幌市	2017年(H29) 3月	建造物現地調査等
18	歴史的資産活用推進事業に係る調査(H29年度)	札幌市	2018年(H30) 3月	建造物・土木構造物現地調査等
19	札幌市歴史的資産調査リスト	札幌市	2018年(H30) 3月	新札幌市史等 文献調査

(参考文献・報告書等)

20	建造物緊急保存調査報告書	北海道教育庁指導部社会教育課	1972年(S47) 3月	
21	大正、昭和初期(1912~1945)の建築現存リスト—全国編・第一次 1974年	日本建築学会歴史・意匠委員会	1974年(S49)	
22	北海道の建築 1863-1974[年表]	日本建築学会北海道支部	1975年(S50) 9月	
23	新版 日本近代建築総覧 各地に遺る明治大正昭和の建物	日本建築学会	1983年(S58) 1月	
24	北海道の近世社寺建築 近世社寺建築緊急調査報告書	北海道教育委員会	1989年(H1) 3月	
25	北海道の近代化遺産 近代化遺産総合調査報告書	北海道教育委員会	1995年(H7) 3月	
26	札幌市の歴史的建物 歴史的建物の実態調査(1996年) および 1982年、1991年、1996年の 3時点の経年的追跡調査から	札幌市歴史的建物実態調査団	1997年(H9) 3月	
27	北海道の近代和風建築	北海道教育委員会	2007年(H19)	

	近代和風建築総合調査報告書		3月	
28	近代建築ガイドブック[北海道・東北編]	越野武+坂田泉	1985年(S60) 1月	
29	総覧 日本の建築 1 [北海道・東北]	日本建築学会	1986年(S61) 10月	
30	北の建物散歩	越野武+北大建築史研究室	1993年(H5) 9月	
31	札幌の建築探訪	北海道近代建築研究会	1998年(H10) 10月	
32	さっぽろ再生建物案内(第2版)	札幌建築鑑賞会	2003年(H15) 4月	
33	さっぽろ・ふるさと文化百選(パンフ)	札幌市市民局市民文化課	1988年(S63) 選定	
34	中央区歴史の散歩道(冊子)	札幌市中央区市民部総務課	1999年(H11)	
35	北区歴史と文化の八十八選(ガイドマップ)	札幌市北区市民部市民課	1990年(H2) 選定	
36	東区まち知るべ(冊子:第5刷)	札幌市東区市民部総務企画課	2009年(H21) (事業:1994年(H6)~)	
37	白石歴しるべ(HP)	札幌市白石区市民部地域振興課	1993年(H5) 設置	
38	あつべつ見聞録(冊子:第3版)	札幌市厚別区市民部総務広報課	1997年(H9) (事業:1990年(H2)~)	
39	とよひらふるさと再発見(HP)	札幌市豊平区市民部地域振興課	1992年(H4) 選定	
40	新札幌市史(第1巻 通史1)	札幌市 札幌市教育委員会	1989年(H1)	
41	新札幌市史(第2巻 通史1)	札幌市 札幌市教育委員会	1991年(H3)	
42	新札幌市史(第3巻 通史3)	札幌市 札幌市教育委員会	1994年(H6)	
43	新札幌市史(第4巻 通史4)	札幌市 札幌市教育委員会	1997年(H9)	
44	新札幌市史(第5巻 通史5上)	札幌市 札幌市教育委員会	2002年(H14)	
45	新札幌市史(第5巻 通史5下)	札幌市 札幌市教育委員会	2005年(H17)	
46	新札幌市史(第6巻 史料編1)	札幌市 札幌市教育委員会	1987年(S62)	
47	新札幌市史(第7巻 史料編2)	札幌市 札幌市教育委員会	1986年(S61)	
48	新札幌市史(第8巻II 年表・索引)	札幌市 札幌市教育委員会	2008年(H20)	
49	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史写真集<明治編>	札幌市 札幌市教育委員会	1975年(S57)	
50	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史写真集<昭和編>	札幌市 札幌市教育委員会	1979年(S59)	
51	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史地図<明治編>	札幌市 札幌市教育委員会	1978年(S53)	
52	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史地図<大正編>	札幌市 札幌市教育委員会	1980年(S55)	
53	さっぽろ文庫別冊 札幌歴史地図<昭和編>	札幌市 札幌市教育委員会	1981年(S56)	
54	さっぽろ文庫別冊 札幌生活文化史<明治編>	札幌市 札幌市教育委員会	1985年(S60)	
55	さっぽろ文庫別冊 札幌生活文化史<大正・昭和・戦前編>	札幌市 札幌市教育委員会	1986年(S61)	
56	さっぽろ文庫別冊 札幌生活文化史<戦後編>	札幌市 札幌市教育委員会	1987年(S62)	
57	さっぽろ文庫別冊 いまむかし札幌を歩く<第一部>	札幌市 札幌市教育委員会	1988年(S63)	
58	さっぽろ文庫別冊 いまむかし札幌を歩く	札幌市	1989年(H1)	

	<第二部>	札幌市教育委員会		
59	さっぽろ文庫別冊 いまむかし札幌を歩く <第三部>	札幌市 札幌市教育委員会	1990年(H2)	

※今後、上記調査等内容について確認整理を行い概要記載予定

※今後、調査を充実させるべき文化財の種類や分野、補足すべき項目等について検討・記載

## 【平成27年度以降の調査】

### <建造物等の文献・現地調査>

平成27年度から平成29年度にかけて、「建造物」「歴史資料」「土木構造物」について文献及び現地調査を実施した。

建造物については文献調査にて約600件把握したもののうち、163件について、土木構造物については文献調査にて約220件把握したもののうち、37件について現況調査を実施し、個別シートを作成した。歴史資料については市内の郷土資料館について所在地や収蔵リストの概要をまとめ、各資料館の独自のものや、民具等資料館に共通するキーワードを抽出した。

### <文献調査>

平成29年度に新札幌市史（第1巻～第8巻）、さっぽろ文庫別冊（4シリーズ11冊）から、有形、無形を問わず、文化財的分類に該当し、かつ、建築・制作・発祥等から50年以降経過しているもの、年代不詳の文化財約9,100件を抽出し、併せてこれらの文化財について札幌の特徴を表す「キーワード（開拓使、お雇い外国人、札幌農学校、和洋折衷、屯田兵、アイヌ文化、オリンピック、雪、レンガ、軟石、市電、定山溪鉄道、玉葱栽培、りんご栽培、ビール、産業・農業、水道、定山溪温泉、創成川、豊平川）」との関連状況を整理した。

## (2) 構想策定と合わせて実施した文化財調査（※今年度実施予定のもの）

### 1) 文化財募集市民アンケート

#### ○WEBアンケートによる市民アンケート

札幌の歴史文化に関するアンケートを短期間かつ効率的な意見収集のため8月中旬頃に実施する。設問数は選択肢1問、自由記述1問を予定。（別紙参照：参考資料-3、4）

#### ○札幌市HPや区役所・まちづくりセンターでのポスター掲示による文化財募集（予定）

文化財を市民から広く募集し、ストーリーに関連するものは関連文化財群として反映させる。

#### ○連合町内会アンケート（予定）

11月23日開催予定のシンポジウム時に「わたしたちのお宝写真展～連町会長さんが選ぶ！地域の文化財90～（仮称）」を行うことを予定。そのために、市内90の連合町内会に、地域一押し文化財を問うアンケートを実施する。シンポジウムでは、集まった文化財の位置とそれにまつわるストーリーを取りまとめたパネルを展示する。

#### ○シンポジウム参加者へのアンケート

#### ○まちあるきイベント参加者へのアンケート

### 2) 郷土資料館へのヒアリング・アンケート（スクリーニング調査）

膨大に所蔵された郷土資料館（13館）の収蔵品・資料等の中から、その地域の歴史文化の特徴をよく物語っていると思う収蔵品・資料等について、その意味付けも合わせて伺いながら抽出するヒアリング・アンケートを実施。

### 3) 市民ワークショップ（『れきぶんワークショップ』）（別紙参照：参考資料-3）

全市を対象に、WEBアンケート、広報、札幌市HPで参加者を募集し、「札幌の歴史文化を学ぶ」「文化財を出し合う」「つながりを考える」「現地調査の実施」「関連文化財群のストーリーづくり」「市民に発信する（シンポジウム）」といった一連の連続講座として実施する『れきぶんワークショップ』において、参加者等の議論から抽出された文化財を整理する。

### 4) まちあるきツアー

文化財保護指導員がまちあるきツアーで対象とした見どころについて、その解説内容も合わせて抽出整理する。

これまでの実施例：創成川東地区の今昔～吉田茂八碑、北海道神宮頓宮、創成橋など

### 3. 文化財の現状

#### (1) 指定・登録等の文化財

##### 【文化財の指定・登録状況】

	有形文化財		無形	民俗	記念物	計
	建造物	美術工芸品等			史跡・天然記念物	
国指定	7	4	1	1	4	17
道指定	2	2	0	0	0	4
市指定	4	5	1	0	2	12
計	13	11	2	1	6	33
国登録	24					24
合計	37	11	2	1	6	57

#### 1) 有形文化財（建造物）

##### <重要文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
八窓庵 (旧舎那院忘筌)	中央区中島公園1番	札幌市	昭25. 8.29	江戸初期の茶人小堀遠州(1579~1647年)の晩年の作と伝えられる草庵風の茶室。
豊平館	中央区中島公園1番20号	札幌市	昭39. 5.26	明治13年に開拓使が建てた洋風建築物で、明治初期のホテル建築の貴重な遺構。
北海道庁旧本舎庁 (赤れんが庁舎)	中央区北2・3条西5・6丁目	北海道	昭44. 3.12	明治21年に建てられた米国風ネオ・バロック様式の官庁建築物。
北海道大学農学部 (旧東北帝国大学農科大学) 第二農場	北区北18・19条西7・8丁目北海道大学構内	国立大学法人北海道大学	昭44. 8.19	明治42年から本道酪農の模範農場として造られた。耕馬舎、穀物庫等全9棟。
旧札幌農学校演武場 (時計台)	中央区北1条西2丁目	札幌市	昭45. 6.17	米国中西部建築様式の影響を受けた実用的な建築で、明治11年に開拓使が建築。
北海道大学農学部 植物園・博物館	中央区北3条西8丁目北海道大学植物園内	国立大学法人北海道大学	平1. 5.19	明治15年建築の博物館本館 同33年建築の博物館事務所 同17年建築の博物館倉庫 同44年建築の植物園門御所など
旧開拓使工業局庁舎	厚別区厚別庁小野幌(北海道開拓の村内)	北海道	平25. 8. 7	明治10年に札幌市街中心部に建設され、昭和54年に北海道開拓の村に創建時の姿で移築された。明治初期の北海道開拓を支えた開拓使工業局の工作場の現存唯一の遺構。

##### <道指定有形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
琴似屯田兵屋	西区琴似1条7丁目琴似神社境内	琴似神社(管理 琴似屯田保存会)	昭39.10. 3	明治8年に入植した北海道最初の屯田兵村の兵屋の1棟で、兵屋番号140番の遺構。
旧永山武二郎邸	中央区北2条東6丁目2番地	札幌市	昭62.11.27	第2代北海道庁長官永山武二郎の私邸で、明治10年に建築された和洋折衷の住宅。

##### <市指定有形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
清華亭	北区北7条西7丁目	札幌市	昭36. 6. 7	札幌最初の講演「借楽園」に明治13年貴賓接待所として建築。
新琴似屯田兵中隊本部	北区新琴似8条3丁目	札幌市	昭49. 4.20	明治19年に新琴似屯田兵村の本部として建築されたもので、週番所(中隊本部)としては札幌に



				おける唯一の遺構。
旧黒岩家住宅（旧簾舞通行屋）	南区簾舞1条2丁目	札幌市	昭59. 3. 28	明治5年に有珠新道の交通の要所となるミソマップ（簾舞）に建築されたもので、札幌における通行屋の唯一の遺構。
札幌市資料館（旧札幌控訴院）	中）大通西13丁目	札幌市	H9. 5. 7	大正15年委建てられた、煉瓦・軟石・RC構造の洋風建築物。

### <登録有形文化財>

名称	所在地	所有者	登録年月日	摘要
北海道大学古河記念講堂（旧東北帝国大学農科大学林学科教室）	中）北9条西7丁目北海道大学構内	国立大学法人北海道大学	H9. 9. 3	明治42年に建てられた、フランス・ルネサンス風の木造建築物。
北星学園創立百周年記念館（旧北星女子宣教師館）	中）南4条西17丁目	北星学園	H10. 9. 2	大正15年、スイスイ人建築課ヒンデルが実施設計し建てた洋風建築。
日本キリスト教団札幌教会（旧札幌美以教会堂）	中）北1条東1丁目	札幌教会	H10. 9. 2	明治37年に建てられた、ロマネスク風の教会建築。
北海道知事公館（旧三井クラブ）	中）北1条西16丁目	北海道	H11. 10. 14	昭和11年に三井家札幌別邸新館として建てられた、ハーフティンバーの洋館。
杉野目家住宅	中）南19条西11丁目	個人所有	H11. 10. 14	昭和8年に建てられた、チューダー様式による集中暖房住宅。
北海道大学農学部博物館バッチェラー記念館	中）北3条西9丁目北海道大学植物園内	国立大学法人北海道大学	H12. 4. 28	明治31年建築のバッチェラー博士の旧宅を移築した、総2階建、全面下見板張の洋館。
北海道大学附属植物園庁舎（旧札幌農学校動植物教室）※現 宮部金吾記念館	中）北3条西8丁目北海道大学植物園内	国立大学法人北海道大学	H12. 4. 28	明治34年建築、昭和17年に建築の一部を移築したもの。木造2階建。
北海道大学旧札幌農学校昆虫及養蚕学教室	北）北3条西8丁目北海道大学構内	国立大学法人北海道大学	H12. 4. 28	明治34年に建てられた、I字型平面を持つ木造平屋建の建物。
北海道大学旧札幌農学校図書館読書室	北）北9条西8丁目北海道大学構内	国立大学法人北海道大学	H12. 4. 28	明治35年に建築された、T字型平面を持つ木造平屋建の図書館閲覧棟。
北海道大学旧札幌農学校図書館書庫	北）北9条西8丁目北海道大学構内716-2111	国立大学法人北海道大学	H12. 4. 28	明治35年に建築された、煉瓦造2階建、切妻造りの倉庫建築。
エドウィン・ダン記念館（旧北海道庁真駒内種畜場事務所）	南）真駒内泉町1丁目	札幌市	H12. 9. 10	明治20年建築。下見板張、寄棟造で、正面中央の玄関及び屋根窓は切妻造。
旧西岡水源池取水塔	豊）西岡公園内	札幌市	H13. 8. 28	明治42年に建築された水道施設の遺構の一部。
黒田家住宅（主屋・蔵・表門・石塀）	中）南13条西7丁目	黒田合資会社	H22. 9. 10	大正13～15年に建築された大正末の地域の建築事情を知る上で、貴重な住宅。
沼田家住宅旧りんご倉庫	豊）西岡4条10丁目	個人所有	H24. 8. 13	昭和28年建築。整った意匠が特徴の煉瓦造倉庫。
柳田家住宅旧りんご蔵	豊）平岸2条5丁目	個人所有	H24. 8. 13	大正後期に建てられた、草創期の煉瓦造りんご貯蔵庫。煉瓦造2階建て
遠藤家住宅（主屋・蔵・南石蔵・北石蔵・表門・塀）	中）南6条西5丁目	個人所有	H26. 10. 7	大正8年頃建築。札幌軟石と煉瓦の塀で囲まれ、洗練された意匠を持つ近代和風建築。

## 2）有形文化財（美術工芸品等）※文献・資料・生活用品

### <重要文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
太刀 銘国俊	—	個人所有	昭8. 1. 23	山城国栗田口の刀鍛冶、国俊作の太刀。刃文は甘美ではないが鍛えが優れており、古来名刀として名高い。
刀 無銘伝来国行	—	個人所有	昭31. 6. 28	その作風と優れた技量からみて来派の作と鑑定されるもので、国行の作と見られる健全な名刀。



箱館奉行所文書	中央区北3条西6丁目北海道立文書館	北海道	平16.6.8	神奈川条約に基づいて設置された箱館奉行所及び出先機関で作成・受理された167点の文書。
開拓使文書	中央区北3条西6丁目北海道立文書館	北海道	平26.8.21	明治2年に設置された北海道・千島・樺太を管轄した開拓使の文書。

### <道指定有形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
札幌市K-446遺跡出土の遺物	中央区南区22条西13丁目札幌市埋蔵文化財センター	札幌市	昭55.8.12	捺文時代の土器、土製支脚、紡錘車の合計17個。
新琴似村屯田兵村記録	北区北8条西5丁目北海道大学付属図書館	国立大学法人北海道大学	平28.3.31	北区新琴似地区に入植した屯田兵の明治中期～昭和初期の自治活動に関する記録。

### <市指定有形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
木造日蓮聖人坐像	中央区南11条西19丁目豊葦山妙心寺	豊葦山妙心寺	昭56.7.21	彩色寄木造りで、僧日住が厄除けのため寛文6年(1666年)に造立したもの。
旧琴似川流域の竪穴住居跡分布図	中央区南22条西13丁目札幌市埋蔵文化財センター	札幌市	平16.8.25	明治27・28年頃高畑宜一氏により作成された、市内都心部から北区麻生町付近までの捺文文化(約1300年～800年前)の竪穴住居跡の窪みを約720ヶ所記録した分布図。
札幌市N30遺跡出土品	中央区南22条西13丁目札幌市埋蔵文化財センター	札幌市	平16.8.25	平成7・8年に、西区二十四軒4条1丁目で発掘調査された縄文時代後期から晩期(約3700～2300年前)の出土品(1413点)。縄文時代晩期末の墓からは、土偶やサメの歯も出土。
札幌独立キリスト教会文書	中央区大通西22丁目札幌独立キリスト教会	札幌独立キリスト教会	平28.7.28	クラーク博士起草の「イエスを信ずる者の契約」等、明治初期の文書計7点。
札幌村・大友亀太郎関係歴史資料及び史跡	東区北13条東16丁目札幌村郷土記念館	札幌市	昭62.2.20	慶応(1866年)、札幌村は大友亀太郎によって開拓が進められ、その後、玉葱栽培の先進地として発展した。これらの歴史資料及び役宅跡。

## 3) 無形文化財

### <市指定無形文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
丘珠獅子舞	東区丘珠(保持団体住所)	丘珠獅子舞保存会	昭49.10.25	明治25年に富山県からの移住者によって伝えられ、伝承してきた獅子舞。

## 4) 民俗文化財

### <国指定重要有形民俗文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
アイヌのまるきぶね	中央区北3条西8丁目北海道大学植物園 北方民族資料室内	国立大学法人北海道大学	昭32.6.3	シイク・トヨタリケ氏によって、大正末期に製作。

### <国指定重要無形民俗文化財>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
アイヌ古式舞踊	南区小金湯27 札幌市アイヌ文化交流センター(保護団体事務局)	札幌ウポポ保存会	平6.12.21(保護団体指定)	北海道に移住しているアイヌの人々に伝承されている芸能。

## 5) 天然記念物

### <国指定天然記念物>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
円山原始林	円山	林野庁	大 10. 3. 3	海拔 266mの山で 390 種の植物分布がみられる。
藻岩原始林	藻岩	林野庁	大 10. 3. 3	414 種の冷温帯の豊富な植物分布がある。海拔 531m。

### <国指定史跡>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
開拓使札幌本庁本庁舎跡 および旧北海道庁本庁舎	中央区北 2・3 条西 5・6 丁目	北海道	昭 42. 12. 15	明治 6 年 10 月に建築された開拓使札幌本庁舎跡。
琴似屯田兵村兵屋跡	西区琴似 2 条 5 丁目	札幌市	昭 57. 5. 7	明治 7 年に建設された北海道最初の屯田兵村の兵屋跡で兵屋番号 133 番。

### <市指定史跡>

名称	所在地	所有者	指定年月日	摘要
手稲山口バッタ塚	手稲区手稲山口	札幌市	昭 53. 8. 21	明治 16 年にトノサマバッタの大群を駆除するために、大量の卵のうを埋めた畝状の塚跡。
札幌村・大友亀太郎関係 歴史資料及び史跡	東区北 13 条東 16 丁目 札幌村郷土記念館	札幌市	昭 62. 2. 20	慶応 (1866 年)、札幌村は大友亀太郎によって開拓が進められ、その後、玉葱栽培の先進地として発展した。これらの歴史資料及び役宅跡。

## 6) 埋蔵文化財

本市は、昭和48年、埋蔵文化財の保護と調和のとれた都市づくりを図るため、保護指導と発掘調査の体制を整備するとともに、包蔵地の所在について詳細な調査を行い、この分布図と台帳の整備を行った。現在までに、539箇所の包蔵地を確認している。

### (2) 札幌市景観計画制度による指定等

#### 1) 景観重要建造物

歴史や文化など地域の景観を特徴づけている建造物及び市民や観光客に親しまれている建造物など景観形成上重要な価値のある建造物を景観重要建造物に指定。

#### 2) 景観重要樹木

自然、歴史、文化などからみて地域のシンボリックな存在として景観を特徴づけている樹木や市民に親しまれている樹木などを景観重要樹木に指定。

#### 3) 景観資産

景観形成上価値があると認められる建築物等、樹木、その他の者で、意匠、様式（樹木にあっては樹木の姿）等が良好な景観を特徴付けているものや将来のまちづくりに生かされる可能性のあるものを景観資産に指定。

#### 4) 活用促進景観資源

建築物、工作物、樹木、これらが一体を成している区域、活動等に該当するもので、良好な景観の形成上価値があると認められるものを活用促進景観資源に指定する。一定の制限がある既往の制度とは異なり、市民等に広く周知することに主眼を置きゆるやかに位置付ける制度である。

※記載内容調整中。

### (3) 地域独自の選定等による既知の文化財

#### 1) さっぽろ・ふるさと文化百選

昭和63年（1988年）に札幌創建120周年を記念して、市内の建物46件、遺跡26件、街並み19件、用具5件、まつりや行事など4件の計100点を「さっぽろ・ふるさと文化百選」に選定した。北国の生活の息吹と開拓の労苦を伝える身近な文化遺産を再発見し、市民自らの手でこれを守り、後世に伝えていくことが目的とされている。

また選定方法は、市民からの応募と各区や郷土資料館等からの提供資料の計241件について、有識者7人からなる選定委員会における選考に基づき決定した。基本的に重要文化財や登録有形文化財は選定から除外されているが、百選の決定後に文化財に指定や登録されたものもある。

昭和63年11月に選定結果を公表し、平成元年に、選定物件の由緒・由来や関係写真などを記したモニュメントが設置されたり、パンフレットが配付された。しかし、都心の開発などにより解体・閉鎖されているものもあり、実際には100件を見ることはできない。

#### 2) 北区歴史と文化の八十八選

北区には開拓日や文学碑、古い建築物などの文化遺産が数多く存在しており、それらを守り、さらに後世に伝えていくために、区内の文化遺産の中から88箇所を選定した。

選定基準は、歴史的に由緒・由来あるもの、(2)市民の身近な生活史に根ざしたもの、(3)地域のシンボルとして役割を果たしてきたもので、この基準をもとに郷土史家などで構成された選定委員会で決定した。

また、区内を(1)文学と学問の道、(2)水辺と開墾の道、(3)森と歴史の道、(4)農村文化発祥の道、(5)藍の道の5つのコースに分け、それぞれのコース内の案内板に書かれたキーワードをつなぎあわせると1つの文章になり、5つの文章を完成させた人は賞品がもらえる。このように、88箇所の文化遺産を多くの人にもらうための取り組みもある。

#### 3) 手稲区史跡ガイドホームページ

昔のマップと今のマップを見比べることで手稲区の歴史を知ることができるホームページである。マップ上の史跡をクリックすると、所在地やその史跡の説明を見ることができる。

また、手稲の歴史と歴史遺産の研究を行っている手稲郷土史研究会と協力して作成された「歴史ガイドブック」は手稲区役所でもらうことができる。それは紙製で、史跡の所在地や情報が載っているので、史跡探索のとき便利である。

#### 4) 白石歴しるべ

白石村の誕生から現在の白石区ができるまでに関係がある史跡や建築物をまとめていて、白石区の歴史を知ることができるホームページである。

イラストマップがあり、所在地とその史跡や建築物などの情報を同時に知ることができる。また、史跡や建築物などの情報はそれぞれがPDFファイルにまとめられており、それぞれの歴史の詳細が書かれている。

※そのほか、歴史の散歩道（中央区）、みどころ（東区）、わたしのあつべつ（厚別区）、見どころ案内（豊平区）、名所・見所案内（清田区）、ふるさと小百科（南区）、西区まちナビ（西区）から、それぞれの文化財の概要説明、数などを記載

※関連する行政計画によるものの記載のしかたについては今後具体的に検討

#### (4) その他の既往・新規調査による文化財

※調査により整理された文化財の概要説明、数などを記載

※課題等あれば合わせて記載

#### (5) 文化財のデータ化の現状

既知の文化財、既往調査により収集した文化財、市民アンケート・郷土資料館へのヒアリング・アンケート（スクリーニング調査）・ワークショップ等により収集した文化財のデータ化を実施し、●●●件のリスト化を行った。

※今後も継続した文化財のデータ化を実施する。



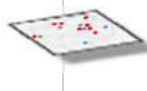
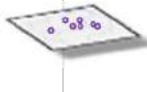


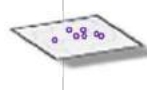




## (2) 札幌市の歴史文化の「特徴」の抽出

札幌市の歴史文化の「特徴」を抽出するにあたっては、前述の札幌市の姿を表す「キーワード」で、既往調査で出された「文化財」を再整理したうえで、歴史的（時間）関連性の観点と地域社会的関連性の観点、空間的関連性の観点から整理する。

※今後の文献調査、ワークショップ等により特徴を再整理。

		旧石器時代以前、 旧石器時代、縄文 時代、続縄文時 代、擦文時代	アイヌ文化期	明治	大正	昭和	平成	
	時代背景 キーワード	縄文以降北海道独自の文化が形成 など	大友堀開削(慶2) など	開拓使設置(M2) 屯田兵制制定(M7) 総合的な交通ネットワークの確 立 など	開道50周年記念博 覧会開催 市制施 行(T11) など	冬季オリンピック の開催(S47) 本格的な投資計画 事業実施など	都市の成熟期にお けるまちづくり など	
	豊かな自然 (地形、みど り、山々、 川、水、雪、 鮮やかな四季)	藻岩山/円山/手 稲山/豊平川/扇 状地/伏古川/月 寒川/厚別川/雪 など	メム(湧き水)/イ タヤカエデ/オオ モミジ/シャク シュコトニ川 等 など	円山原始林・藻岩山原始林/ など		中谷宇吉郎 など		豊かな自然や 地形は全ての 特徴に影響
	遺跡	サッポロカイギュ ウ/S354遺跡/ S354遺跡K518遺 跡/N434遺跡/ S501遺跡/手稲 遺跡 など	S501遺跡/S518 遺跡/天神山チャ シ など	旧琴似川流域の堅六住居跡分布 図 など				空間的×地域社会的観点 札幌の豊かな 地形・地質が 育んだ古の文 化
	アイヌ 文化		S501遺跡/S518 遺跡/天神山チャ シ/藻岩山(イン カルンベ)/アイ ヌ語地名/アイヌ 古式舞踊/石狩十 三場所 など	北没日誌 など	アイヌのまるきぶ ね など	札幌アイヌ協会(北 海道アイヌ協会) など	北海道立アイヌ総 合センター/サッ ポロピリカコタン /ウレンバモシリ 北海道イランカラ ブテ像 など	空間的×地域社会的観点 藻岩山や豊平 川に代表される 豊かな自然と今 に継承されるア イヌ文化
	地域ごとに発 展した文化 (旧町村、御 手作場、屯田 兵、農業、産 業)		吉田茂八/志村鉄 一/大友亀太郎/ 創成川(大友堀)/ 御手作場 など	新川/丘珠獅子舞/琴似屯田兵 村兵屋跡/平岸りんご栽培/ パッタ塚/たまねぎ栽培/旧西 岡水源池取水塔/手稲鉱山/ など	石狩街道沿いポ ラ並木/篠路大根 /山口スイカ/月 寒種羊場/福山醸 造/雪印乳業/ など	水田開発記念碑/ 平岸りんご並木/ 琴似屯田百年記念 碑 など		空間的×地域社会的観点 市域の拡大が行 われながらも今 に残る地域特有 の歴史文化
	開拓使関連人 物、建物、市 街地の街並み (開拓判官、 開拓使関連建 物、お雇い外 国人、)			松浦武四郎/島義勇/岩村道俊 /碁盤の目の街並み/幌内鉄道 /大通公園/偕楽園/札幌駅 (札幌停車場)東本願寺道路/南 一条通(銭函通)創成橋/札幌神 社/時計台/豊平館/すすきの /ビール工場/開拓使文書/永 山武四郎邸/北海道大学農学部 第二農場/エドウィンダン/ケ ブロン/クラーク/石切山 等 など				空間的×歴史的観点 水の都に開 拓使が築い た札幌市街 地
	市民の暮らし (まつり、各 種行事、余 暇、公園、商 店、交通)			札幌まつり/偕楽園/大通公園 /円山公園/中島公園円山の花 見/二条市場/丸井今井(今井 商店)/スキー/スケート 等 など	豊平川花火大会馬 車鉄道/路面電車 /定山溪鉄道/サ サラ電車/三越 (京屋デパート) など	市電/市営バス/ さっぽろ雪まつり /美園りんごまつ り/かっぱ祭/す すきの祭/ピア ガーデン など	YOSAKOIソーラ 祭り/ポラリス /チカホ など	空間的×地域社 会的観点 鮮やかな四季 の移り変わり と市民の暮らし
	札幌冬季オリ ンピック (競技場、地下 鉄、地下街)					大倉山ジャンプ競 技場/サッポロテ イネ/オーロラタ ウン・ポールタ ウン/地下鉄南北線 /真駒内公園 など		空間的×歴史的観点 冬季オリ ンピック札幌 大会によ って大きく変 化したまち



## 【札幌市の歴史文化の特徴（案）】

### 1) 札幌の豊かな地形・地質が育んだ古の文化

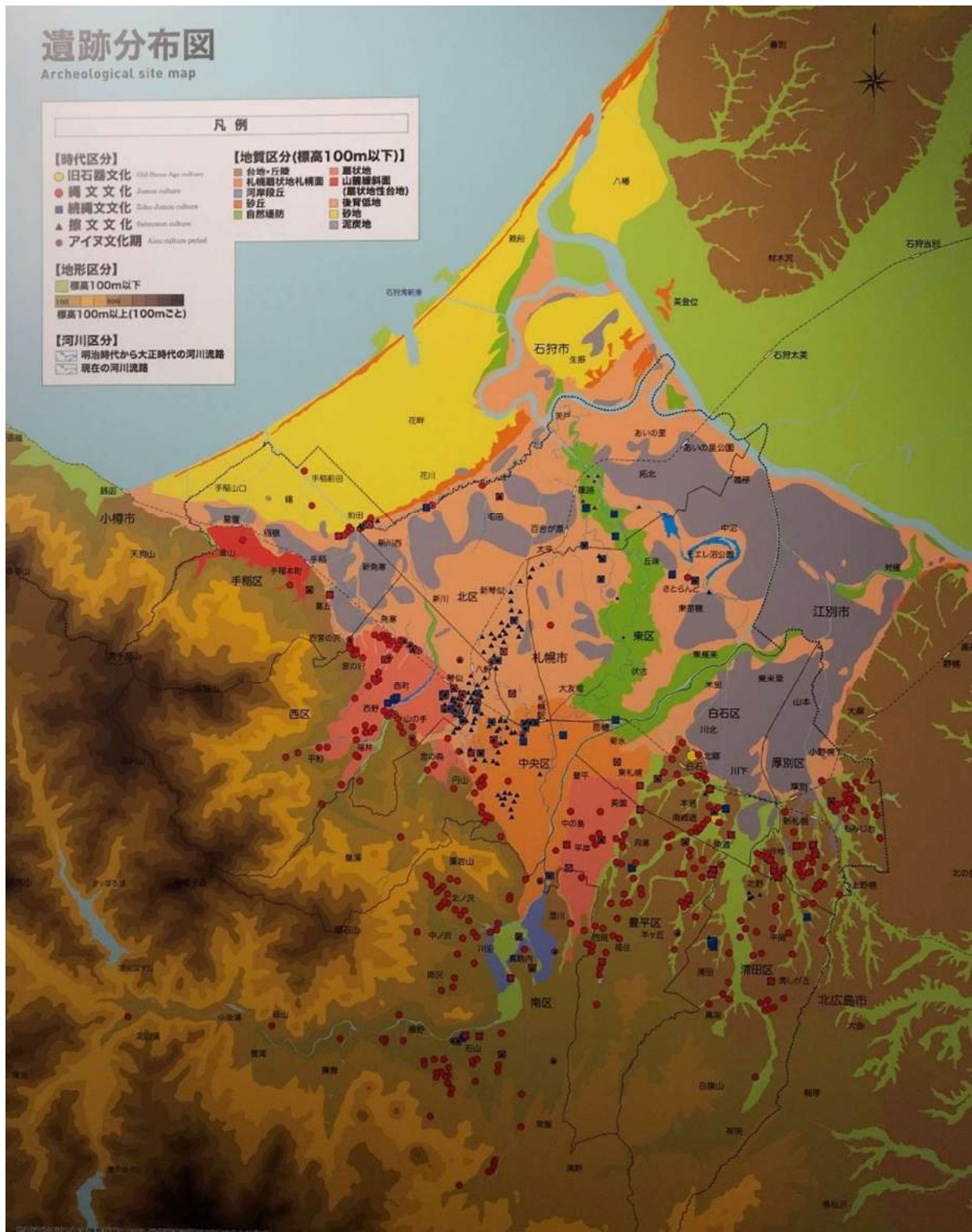
2億年前、現在の北海道のあたりは一面の海であった。2400万年前の新第三紀、北海道は多島海となり、札幌地域も海水を被り海の生物が住むようになった。約3万2000年前の支笏火山の大爆発は大量の火山灰を降らせ、熱雲軽石流が札幌中心部まで流れ着き、月寒台地を形成した。当時海であった札幌の冷水海には、海生哺乳類で唯一草食性のカイギュウ（海牛）が住んでおり、世界最古の大型カイギュウの化石「サッポロカイギュウ」が豊平川で発見された。

縄文時代には、札幌市と石狩市の境界にある紅葉山砂丘など、札幌の台地に人が住むようになり、その後、今の豊平川や厚別川、月寒川、旧中の川などの川沿いに多く遺跡が発見されており、札幌市内で発掘された遺跡の約半数が縄文時代のものである。また、続縄文・擦文・アイヌ文化期には、主に琴似川の周辺やシャクシュコトニ川周辺などで多く遺跡が見つかっており、遺跡やその位置から札幌の地形・地質・自然と人々の営みの関係を垣間見ることができる。

※博物館活動センターへのヒアリングによって追記予定

#### <参考文献>

- ・サッポロカイギュウは世界最古。／札幌市博物館活動センターHP
- ・100の物語【歴史】／北海道総合政策部HP
- ・埋蔵文化財包蔵地一覧（平成30年4月現在）／札幌市HP
- ・『北海道の歴史がわかる本』桑原真人・川上淳／亜璃西社
- ・『北海道の古代・中世がわかる本』関口明・越田賢一郎・坂梨夏代／亜璃西社
- ・『さっぽろ文庫90 古代と遊ぶ』札幌市教育委員会／札幌市・札幌市教育委員会



札幌市の遺跡分布図 出典：札幌市埋蔵文化センター

## 2) 藻岩山や豊平川に代表される豊かな自然と今に継承されるアイヌ文化

現在の札幌市域は、かつてのイシカリ十三場所のうち5カ所(ハッシャブ、シノロ、ナイホウ、上サッポロ、下サッポロ)に相当する。この地域には近代以前から多くのアイヌの人々が暮らしていた。特に当時ムム(湧水)が見られた北海道大学内や豊平川付近には大きなコタン(村)があったといわれている。また、アイヌ文化期の遺跡も市内各地の川がある、もしくはあった付近で多く発掘されている。

札幌市内の地名や川や山の名前はアイヌ語に由来するものが多く存在している。例えば、真駒内は「マク・オマ・ナイ=山の方にある川」、琴似は「コッ・ネ・イ=窪地になっている処」、星置は「ペシ・ポキ=崖のその下」など、自然の地形的特徴による地名がある。一方で和人がつけた際に当初と変化した名前もある。藻岩山は昔「インカルシペ=何時も見る処」と呼ばれ眺めが良くアイヌの崇拝する山であったり、豊平川は昔「サッポロ=乾いていて広い(諸説あり)」と呼ばれていた。このように、市内のアイヌ語地名の意味をひも解くことで、その地域の特徴やまちの開発等によって失われた自然の姿を思い返すことができる。



藻岩山(インカルシペ) 出典:札幌観光写真ライブラリー

1869(明治2)年に開拓使が設置され、まちの開拓が進むと共に市内のアイヌの人々は激減したが、第二次世界大戦後の高度経済成長期以降は北海道の人口が札幌に集中するのと同じように、道内各地からアイヌの人々が札幌に移動するようになった。また、現在では、札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカコタン)などの施設や、伝統楽器の演奏や古式舞踊の披露などのイベント、アイヌ語・手芸・工芸・料理などのアイヌ文化体験講座などが市内で実施されており、様々な形でアイヌ文化が今に継承されている。



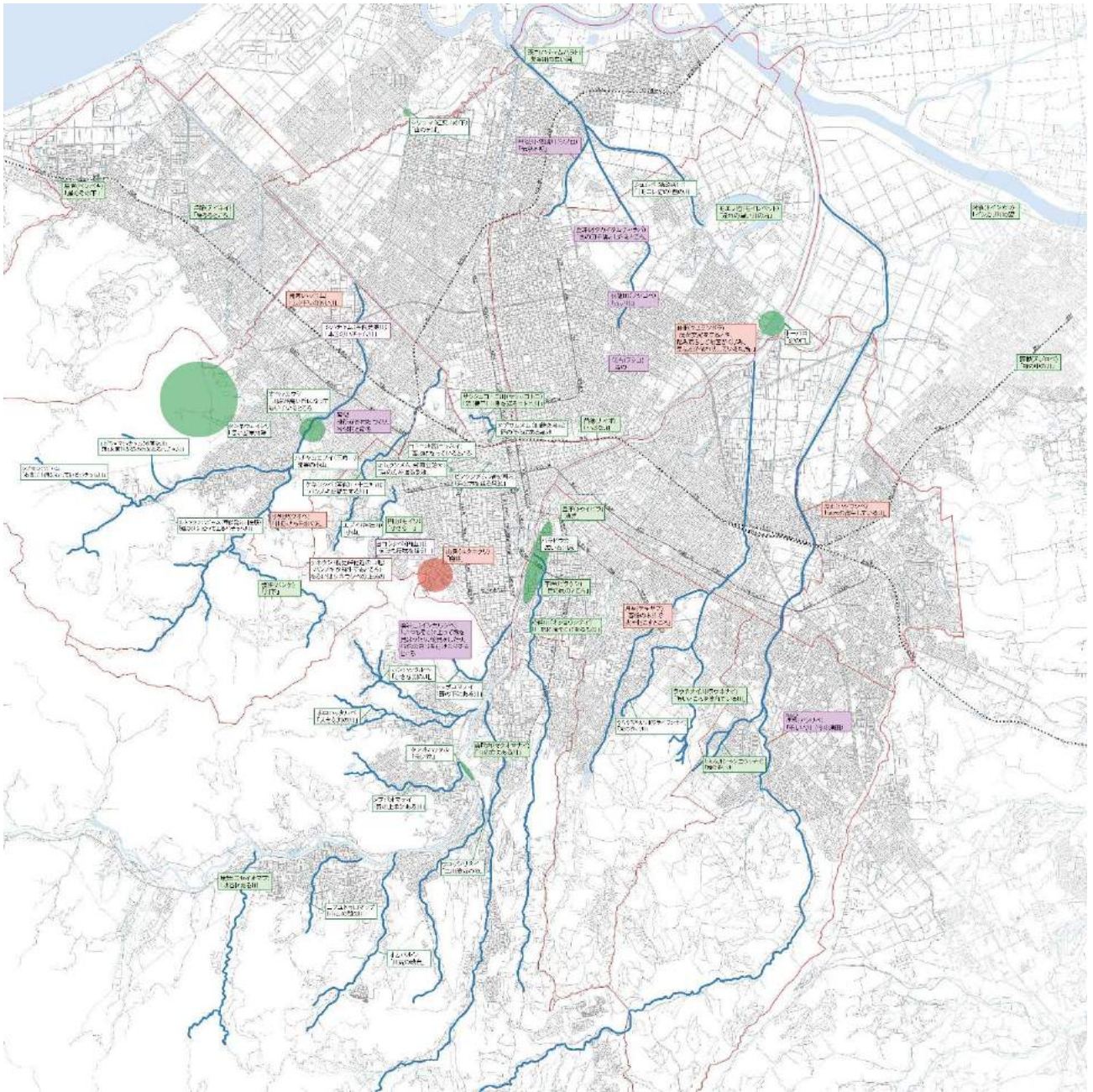
サッポロピリカコタン 出典:札幌観光写真ライブラリー

※今後の文献調査、ヒアリング、ワークショップ等により追記予定。

### <参考文献>

- ・現代アイヌの生活と地域住民
- ・札幌のアイヌ地名を尋ねて
- ・現代アイヌの生活と地域住民





今に残る地形と地名のアイヌ語名 出典：札幌のアイヌ地名を尋ねて／ウォッチング札幌／

### 3) 水の都に開拓使が築いた札幌市街地

札幌の市街地は、豊平川の扇状地を開けており、山間を下ってきた川の水は、砂や礫が堆積した扇状地まで下ると多くの水が地下に吸収され、その水が、扇状地の各所において再び地上に噴き出し、多くの流れをつくっていた。開拓使が札幌を北海道開拓の中心地として選んだのは、大河石狩川の舟運により内陸部そして日本海・太平洋と四方への便からであった。さらに対外関係、特にロシアの南進に備えて日本海沿いに設置されたと考えられる。この選定は、開拓判官であった松浦武四郎によるもので、本府建設の地を模索している際、文化年間(1804~1817)に近藤重蔵が残した記録を基に、現地の二人のアイヌの酋長とともに周辺を調査し、主に石狩川への舟運の便を理由に、豊平川を遡る3里(約12km)の地に適当な所(札幌)があることを確認した。

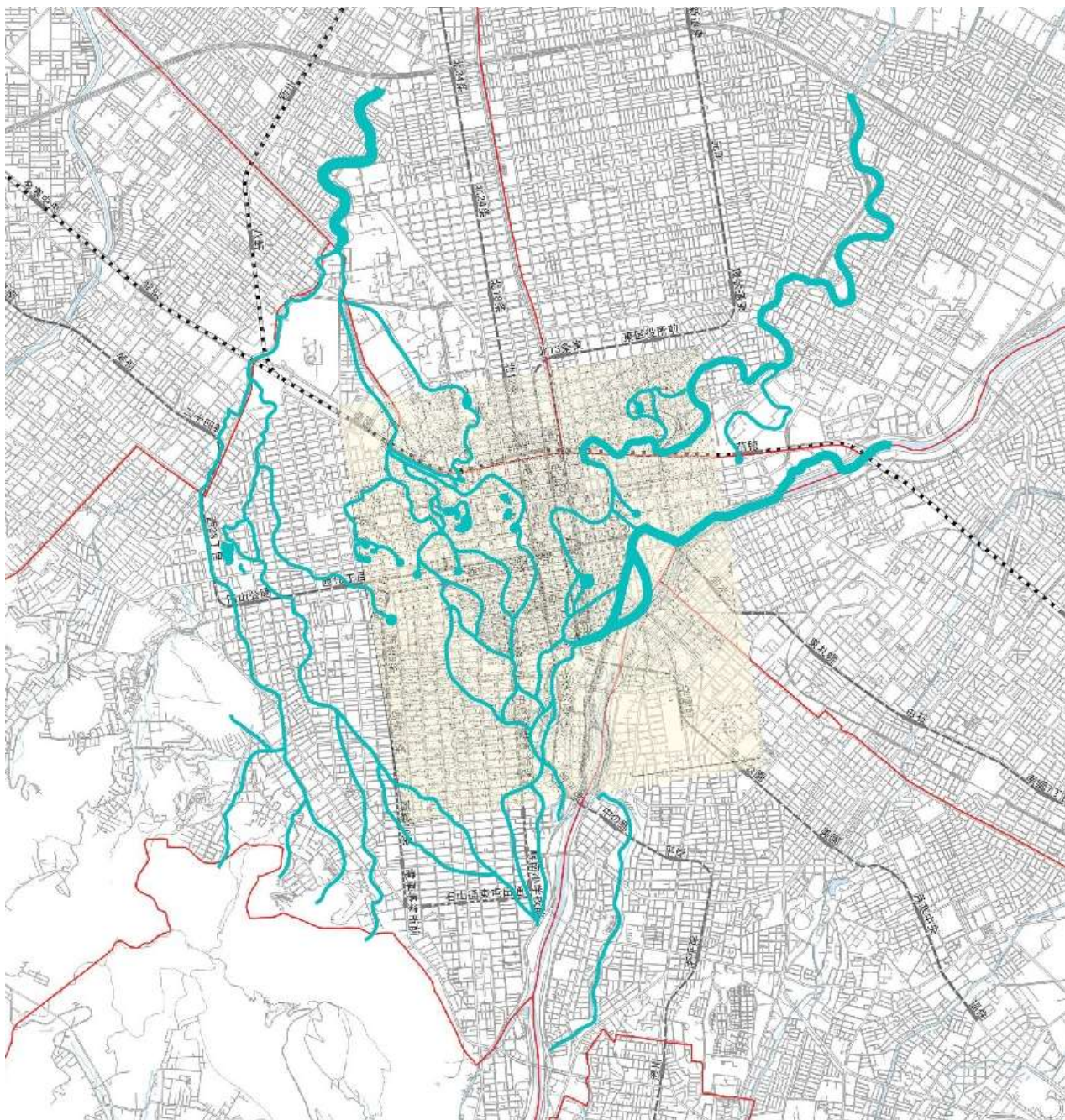
1869(明治2)年、開拓使が設置されたことで札幌市街地の本格的な本府建設がはじまった。開拓主席判官島義勇が札幌の原野を見て描いた「いつか札幌を世界の都に」という壮大な夢が、今の札幌の市街地の発展に繋がっている。島判官は札幌の地形や自然など当時の札幌のまちを分析し、現在の南1条通りを東西軸、創成川を南北軸とし、北西部に官庁・学校を、北東部は官営工場、南西部に町屋・住宅を、南東部には流通・宿泊施設を設置するという考えを基本として、現在の碁盤の目の札幌市街地が形成された。市街地は豊平川扇状地の先端付近に位置した良質地盤で、メム(湧水)や旧河川等の水の豊富な中心部に、開拓の首府が設置された(現道庁付近)。また西側には農業・工業試験場を兼ねた偕楽園等、東側には工業局用地(後に製糖・製麦、ビール・酒造工場等が立地)等と、西側と東側のメム及び旧河川跡周辺に設置した。

黒田清隆が開拓次官に就任した1871(明治4)年から北海道庁設置の1886(明治19)年までの後期開拓使時代は、黒田次官が招いた御雇外国人ホーレスケプロンの構想である「開拓使十年計画」を基に進められ、そのほかの御雇外国人の技術指導のもと建築物の建設や製造業・農業などの産業推進が行われた。現在でも、北西部には開拓使札幌本庁舎跡や旧札幌農学校演武場であった時計台、北東部には札幌ビール工場などの工場施設などが残されている。

札幌開拓の軸となった創成川には、平成27年に創成川公園が整備され、水辺空間を楽しめるよう階段も整備され、多くの市民が訪れている。1871(明治4)年に設置された歓楽街としてのすすきの(当時は薄野)は現在も賑わいを見せている。また、大通公園は、島判官による「石狩国本府指図」に公路的空間として描かれており、のちに長岡安平によって公園として設計されている。現在は、観光名所であるテレビ塔が設置され多くの観光客が訪れると共に日常的に市民の憩いの空間となっている。また、テレビ塔から大通公園を望む景色は東西にまっすぐ伸びており、開拓使時代に考えられた札幌のまちの構造とその発展を見ることができる。

※今後の文献調査、ヒアリング、ワークショップ等により追記予定。





現在の地図に古河川図及び明治 24 年の市街地の地図を重ねた図

出典：さっぽろ文庫別冊 札幌歴史地図<明治編>

さっぽろ文庫 川の風景

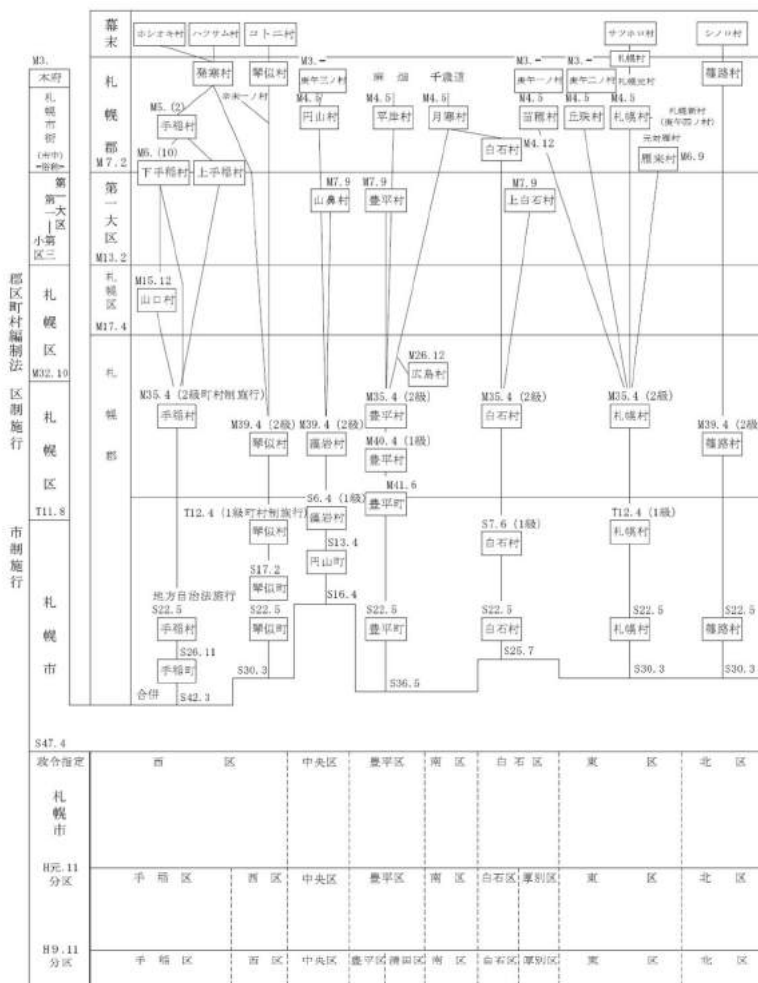


#### 4) 市域の拡大が行われながらも今に残る地域特有の歴史文化

開拓使が設置される以前から、現在の札幌市域にあたる地域にはアイヌ民族が住んでいたが、発寒や星置、琴似などを始めとして農業開拓のため、入植者たちが移り住み、開拓を進めた。開拓使が設置され、札幌本府（現在の札幌市街地）の開発が進められるとともに、1871(明治4)年、平岸・月寒・白石・手稲などへ移住が行われ、札幌本府周辺の開拓が進められた。

1875(明治8)年には屯田兵が琴似に、翌1876(明治9)年には山鼻・発寒に入植したことで、開拓が大きく進んだ。開拓が進められると共に、札幌は周辺町村を繰り返して、現在の10区からなる札幌市となったが、農業開拓のための入植・移住者によってもたらされた歴史や文化が今も残りその後も発展するなど、その地域をより特徴づけている。

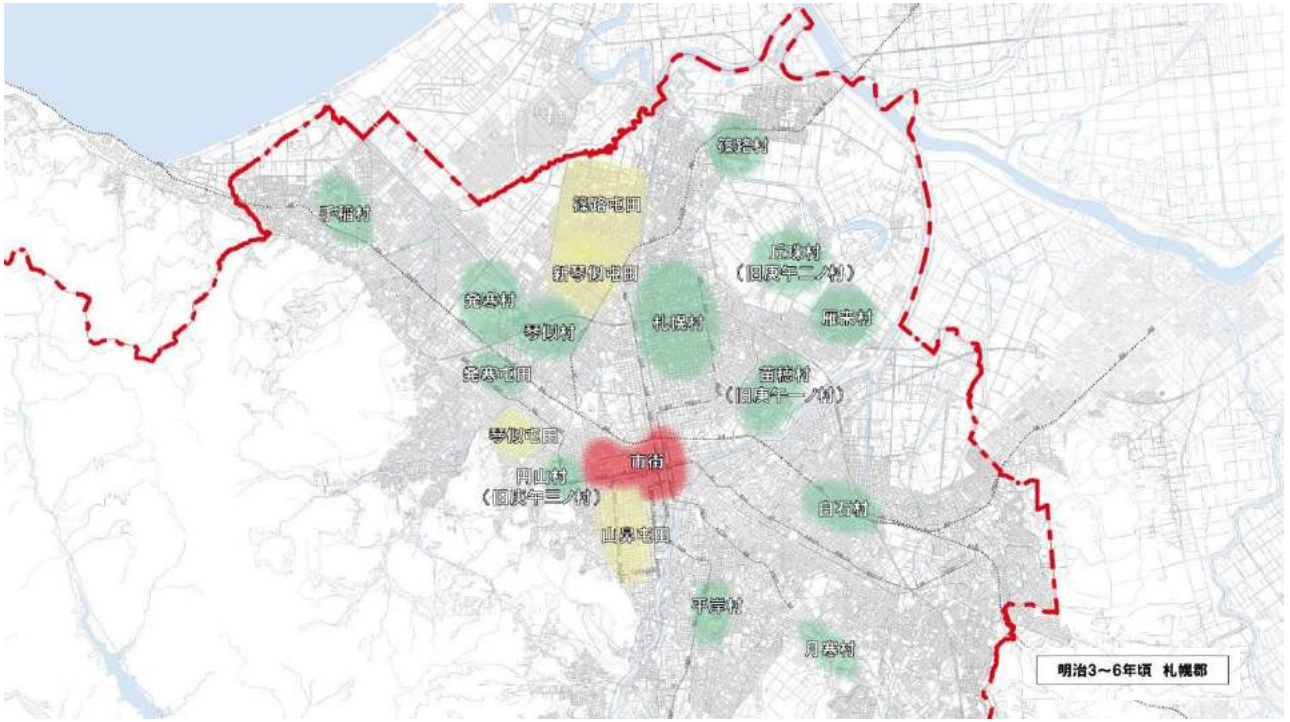
※今後の文献調査、ヒアリング、ワークショップ等により追記予定。



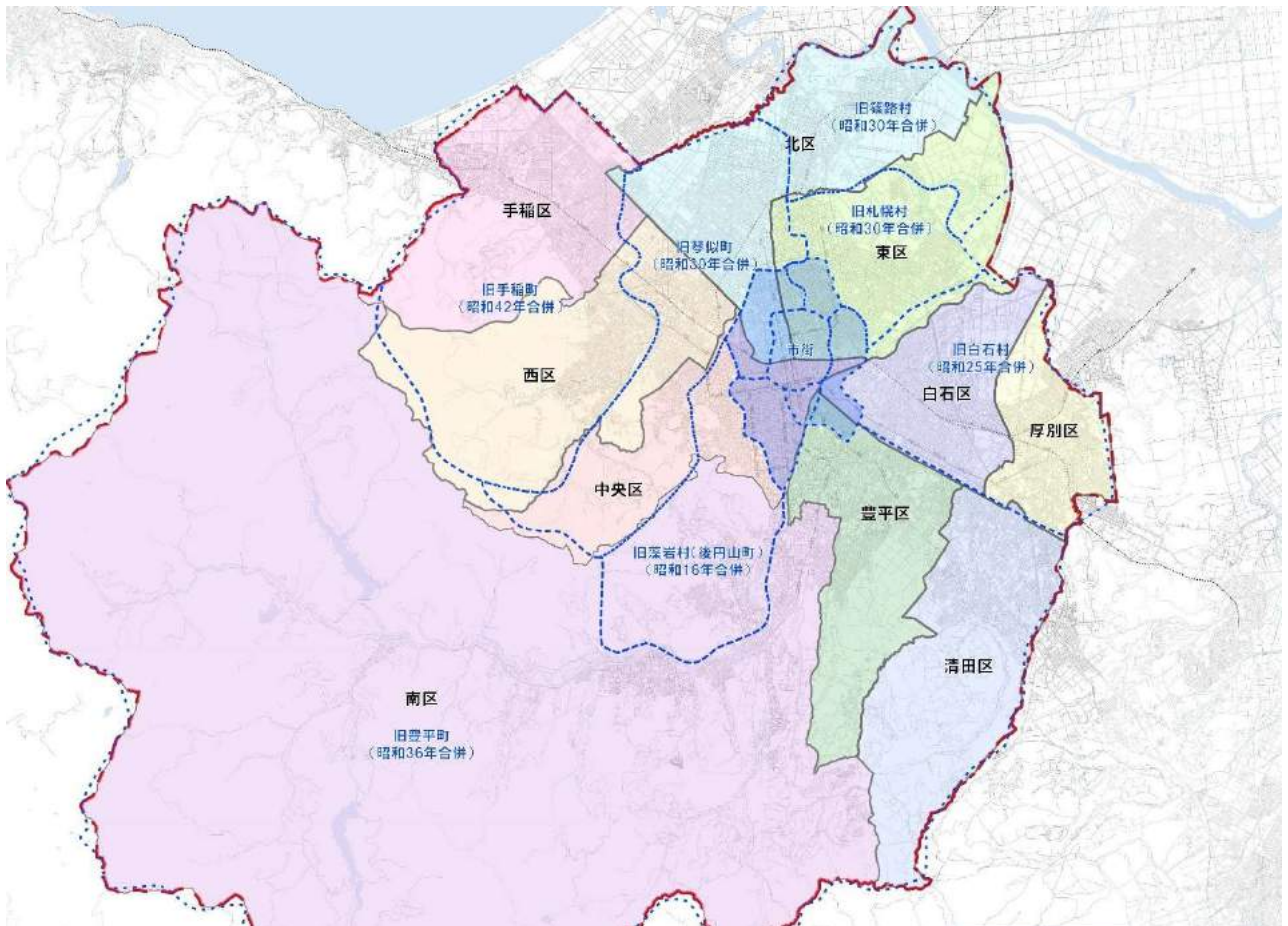
札幌支部及び諸村の変遷図 出典：札幌市政概要

番号	年月日	面積 (km <sup>2</sup> )	備考
①	明治4年12月	5.492	札幌創建当初
②	15年2月8日	13.472	三原分立当初
③	19年12月31日	14.557	北海道庁設置時代、中島公園の区域編入
④ Ⅰ	43年4月1日	24.169	豊平町・白石村・札幌村・深岩村の一部を編入、区の一部を琴似村に分割
⑤	昭和9年4月1日	29.274	札幌村の一部を編入
⑥	16年4月1日	76.254	円山町と合併
⑦	25年4月1日	76.657	札幌村の一部を編入
⑧	25年7月1日	133.168	白石村と合併
⑨	25年4月1日	133.487	広島村の一部を編入
⑩	30年3月1日	287.666	琴似町・札幌村・篠路村と合併
⑪ Ⅱ	30年4月1日	286.666	江別市と交換分合
⑫	30年10月1日	284.15	国土地理院の改測による
⑬	35年5月1日	1,008.67	豊平町と合併
⑭	42年3月1日	1,117.98	手稲町と合併
⑮	48年12月1日	1,118.01	小樽市の一部を編入
⑯	63年10月1日	1,121.18	国土地理院の改測による
⑰	平成3年4月1日	1,121.12	国土地理院の境界修正による
⑱	25年10月1日	1,121.26	国土地理院の計測方法及び計測の基礎となる地図の変更による

市域の変遷 出典：札幌市政概要



明治 3～6 年頃の札幌郡 札幌市街と屯田兵村及び周辺村



昭和 9 年ごろの札幌市街地と周辺町村合併の変遷及び現在の区域

## 【中央区】

志村鐵一とともに札幌の開祖と言われる吉田茂八は、豊平川の渡守として札幌に定住した最初の和人で、安政4（1857）年、現在の南4条東4丁目の辺りに定住したとされている。それから約9年後、大友亀太郎が一大行事として大友堀（のちの創成川）を堀り、街づくりの基点となった。

1869（明治2）年に開拓使が設置され、碁盤の目状に整理された現在の中央区の姿がつくられていった。

1872（明治5）年には丸井今井が建てられ、札幌一番街商店街（南1条通り）の誕生となると翌年には狸小路ができるなど市街地の賑わいが生まれていった。狸小路4丁目付近から出火し、全市街地（当時）の五分の一に相当する887戸が焼失した明治25（1892）年の「札幌大火」などの困難を乗り越え、新渡戸稲造による遠友夜学校の開設やガス、上下水道の整備、市電の開通など近代化が進められていった。中央区のシンボルの一つである路面電車の歴史は古く、1918（大正7）年に走り始めてから、線路の縮小・延伸を経て現在も新型低床車両ポラリスを導入するなど市民の足として活躍している。

昭和47（1972）年に政令指定都市へ移行したのに伴い、中央区が誕生した。多くの歴史的建造物を残しながらも、札幌市の都市機能の中核として発展し続けている。

## 【北区】

篠路地区は札幌で一番早く開拓が始まったと言われ、1859（安政6）年頃には福島県出身の早山清太郎により農村として荒井村の開拓が進められた。石狩川河口近くの左岸に位置した見渡す限りの原野だった札幌の地を、人々は石狩湾から石狩川に入り、内陸に進みながら開拓していった。

1871（明治4）年、鉄西地区に“私園”ではなく“公園”として日本初の「偕楽園」がつけられた。旧福岡藩の士族・木野東らが石狩川沿いのトウヘツフト（現 福移）へ入植した1882（明治15）年、篠路地区に徳島県人滝本五郎らが「興産社」を組織して入植し、藍を栽培した。

1887（明治20）年に九州の士族を中心とした屯田兵（新琴似屯田兵）が新琴似に入植、1889（明治22）年には熊本ほか6件から士族の屯田兵が発寒川付近に入植して旧篠路兵村（現 屯田地区）となった。この地は、札幌で屯田兵によって開拓された最後の土地となり、新琴似屯田兵中隊本部が復元されて屯田兵に関する資料が保存・展示されている。

1897（明治30）年に新琴似歌舞伎が、1902（明治35）年には篠路村烈々布部落で篠路村烈々布素人芝居（のちの篠路歌舞伎）が始まり、貴重な農民文化史となっている。

旧琴似町と旧篠路村は、1955（昭和30）年に札幌市と合併し、かつて農業・酪農地帯だった地域にも宅地開発等が進んだ。1972（昭和47）年、札幌市が政令指定都市に移行し、北区が誕生した。

北区では多くの開拓碑や建築物などを選定し、「北区歴史と文化の八十八選」として保存・活用しており、開拓の歴史と伝統を誇りに発展を続けている。

## 【東区】

1866(慶応2)年、幕府の命を受けた大友亀太郎により、伏籠川のほとり(現在の北13条東16丁目付近)で札幌村の開拓が始まった。亀太郎は模範農場として幕府直営農場である御手作場を造って農民を入植させるため、用水路である大友堀(創成川)、道路や橋などを造った。1870(明治3)年、酒田県(現山形県)の移民が庚午一ノ村(苗穂村)と庚午二ノ村(丘珠村)に、柏崎県(現新潟県)の移民が庚午四ノ村(札幌新村)に入植し、1873(明治6)年、陸前国(現宮城県)の移民が雁来村に入植した。この頃から庚申講という民間信仰が始められ、豊作と家内安全を祈願した入植者たちの想いが垣間見ることができる。また、明治25(1892)年には、富山県からの入植者による丘珠獅子舞が伝えられている。

各県からの移民たちのたゆまぬ努力によって、徐々に農業が村の主要産業となり、雑穀からリンゴ・ブドウなどの果樹栽培を経て、明治の中頃にはタマネギ栽培が定着しはじめた。また、1892(明治20)年に軍需用麻製品の製造を目的として北海道製麻会社(現帝国繊維株式会社)が創立され、その後、大正・昭和にかけて多くの工場が建てられて工業地帯となった。現在も東区の産業は、農業・工業・商業の三拍子がそろっている。

札幌村は、昭和30(1955)年に琴似町、篠路村とともに札幌市と合併し、昭和47(1972)年の札幌市が政令指定都市移行に伴い、東区が誕生した。

## 【白石区】

1871(明治4)年、戊辰戦争で敗れた仙台藩の白石城主・片倉小十郎の家臣たち600余人が咸臨丸と庚午丸に乗り、嵐や座礁事故などに遭いながらも北海道を目指した。白石区の歴史は、最月寒と呼ばれていた地によりやくたどり着いた67人が移住したことに始まる。真冬の寒さに耐えながら、現在の国道12号沿い(白石公園付近から白石神社までの間)に短期で住まいを完成させ、その働きぶりに感心した岩村俊通判官によって、「白石村」と命名された。翌年には村の集会所に、善俗堂という寺子屋式の教育所(旧白石小学校の前身)がつくられた。

1879(明治12)年に北郷に岩手県人である稲垣岩松が入植、1882(明治15)年には南郷に岩井沢七兵衛が入植しました。北郷には、入植から5年後に鈴木煉瓦製造所が建てられ、北海道における本格的レンガ製造業の先駆けとなった。

当時、北海道では米の栽培はできないとされ畑作を行っていたが、米食への思いを断ち切ることが出来ず、何度も稲の栽培を試みて、1883(明治16)年によりやく白石村の中央と厚別で水田の施策に成功し、稲作が発展していった。1886(明治19)年に菊亭脩季が上白石村に入植して数年間農園を経営した。現在の菊水という地名は、菊亭の「菊」と、豊平川の「水」にちなんでいると言われている。1890(明治23)年には米里に本城春蔵らが入植している。1945(昭和20)年に、無医村だった白石村に初めて白石村診療所(現吉田病院)ができ、村民たちの生活を支えた。

上白石村の一部を札幌区に編入したり、江別町の一部を編入するなどを繰り返したのち、1950(昭和25)年に札幌郡白石村が札幌市と合併して、札幌市白石町・上白石町・厚別町となった。1972(昭和47)年には札幌市が政令指定都市に移行したのに伴い、白石区が誕生、その後、人口増加などにより1989(平成元)年11月に白石区と厚別区に分区した。



## 【厚別区】

札幌と幌内炭鉱（三笠市）の間に鉄道が開通した翌年の1883（明治16）年に、長野県信濃出身の河西由造らが厚別西に、中沢兼三郎らが厚別東に入植したのが始まりである。1885（明治18）年には、現在の青葉町ともみじ台を含む下野幌地区に、福岡県人の石松弥七と小ケロ石太郎が、上野幌地区には小ケロ石松、石井市郎兵衛、大崎三平、太田鉄五郎らが、大谷地には阿住勘五郎、駒林鉄五郎が入植した。1889（明治22）年になると、厚別北と厚別東を含む小野幌地区に、山口県人の秋本槌五郎が入植した。1909（明治42）年には小樽の山本久右衛門が私財を投じて農場を開き、水田耕作を中心とした山本地区の開墾が始まった。多くの開拓者が厚別地区に入ったが、小樽や札幌の中心に一旦定住した後に移り住んだ人がほとんどであった。最初は原生林や湿地帯、川の氾濫などに悩まされ、再び厚別の地を離れて行く人も多く、人々がこの地域に定着し始めたのは、最初に入植してから20年ほど経った1902（明治35）年頃だと言われている。

1924（大正13）年、上野幌地区に出納陽一が経営する宇納牧場（のちに宇都宮仙太郎が経営参加）が開設された。その後、仙太郎が会長となった「北海道製酪販売組合」が、宇納牧場の製酪所を借り受けて民間初のバター製造を開始した。デンマークやアメリカの酪農を模範とし、本格的な製造・販売の道を歩んでいった。

1950（昭和25）年に白石村が札幌市と合併し、1972（昭和47）年、札幌市が政令指定都市に移行するのに伴って白石区となった。その後、1989（平成元）年11月に人口増加により、白石区が厚別川を境界の基本線として分区し、東側に厚別区が誕生した。

## 【豊平区】

1857（安政4）年、札幌越新道が開削され、通行屋（休憩・宿泊施設）の建設が始まるとともに、札幌市内最初の和人居住者の一人といわれ、「札幌開祖」とも呼ばれた志村鐵一が豊平に定住した。1871（明治4）年、岩手県人が月寒、平岸、福住に入植し、翌年に月寒村と平岸村が、1874（明治7）年には豊平村が開村した。さらに翌年、技師ホルトの設計による豊平橋が完成した。

平岸村はリンゴの栽培などで、豊平村は室蘭街道（現 国道36号）から札幌区に入る玄関口として栄えていった。農業を中心とした村であった月寒村は、1896（明治29）年に当時の陸軍第七師団独立歩兵大隊（後の歩兵第二十五連隊）の兵営が設置され、軍都としての顔も併せ持った。1909（明治42）年には、第二十五連隊用に札幌初の水道が完成している。

1902（明治35）年には豊平・月寒・平岸の3村が合併して豊平村が誕生し、1908（明治41）年には豊平町と改称されました。1911（明治44）年、平岸と月寒を結ぶ連絡道路として平岸連絡線が完成し、この建設に従事した第二十五連隊の兵士たちに月寒あんぱんが配られたことから、アンパン道路と呼ばれるようになった。

平岸には天神山遺跡・東山遺跡・平岸坊主山遺跡の三つの縄文遺跡がある。その一部だった羊ヶ丘は、1906（明治39）年に農商務省月寒種牛牧場（現 北海道農業研究センター）、その後月寒種羊場が設置された。

定山溪鉄道の完成や宅地化が進み、シンガポールに輸出されるほど栄えた平岸のリンゴ栽培も徐々に姿を消していった。1961（昭和36）年、豊平町は札幌市と合併し、1972（昭和47）年の札幌市政令指定都市への移行に伴い、豊平区が誕生した。

## 【清田区】

木村某という人物が、現在の真栄通の辺りで通行屋（駅通）を営んでいたが、本格的に人が住み始めたのは、1873（明治 6）年、月寒開拓団の一人であった長岡重治が最初だと言われている。1878（明治 11）年には長岡徳太郎が通行屋を営み、豊平村は札幌市東南部の玄関口として利用された。

1891（明治 24）年に吉田善太郎らが厚別川に用水路（吉田用水）を建設し、徐々に居住者が増えていった。1901（明治 34）年頃には、苦勞の末に北海道で初めて米作りを成功させた中山久蔵が、改良した赤毛米という種もみを長岡重治など開拓農民に無償で分けた。そのおかげもあり、稲作や畑作が定着して集落を作り、厚別（ありしべつ：現 清田・北野・平岡・真栄の総称）、三里塚（現 里塚）、公有地（現有明）と呼ばれるようになり、翌年には豊平村、月寒村、平岸村の 3 村が合併して豊平村に、1908（明治 41）年には豊平町と改称された。

1885（明治 18）年に創設された厚別（あしりべつ）神社は、穀物の豊作と村人の安全を願い、長岡重治らによって建てられた。

1921（大正 10）年頃には平岡、里塚ではリンゴ栽培が始まり、1960（昭和 35）年頃まで続いた。稲作技術の改良も進み、厚別川周辺には水田が広がり、畑作地帯では酪農も始まった。

1961（昭和 36）年、豊平町が札幌市と合併、1972（昭和 47）年の札幌市政令指定都市への移行に伴い、豊平区が誕生した。人口増加に伴い、1997（平成 9）年に豊平区から分区し、清田区が誕生、「清田」という地名は、1944（昭和 19）年、字名改正により、「美しい清らかな水田地帯」という意味でつけられた。

## 【南区】

1753（宝暦 3）年、木材業者・飛騨屋久兵衛によって豊平川沿いの山林伐採が開始され、1866（慶応 2）年には美泉定山が温泉を発見し、東久世によってこの地が定山溪と名付けられた。

1870（明治 3）年、尾去別（おさるべつ）から平岸までの道路開削が始まった。これは徳川家側だった東本願寺と新政府との間で交わされた、誓書の代償としての北海道の防備（道路開削）であり、約 105 km の難工事は 1 年 3 ヶ月という短い期間で完成した。1872（明治 5）年には簾舞通行屋（駅通）が置かれ、屋守の黒岩清五郎が定住した。同年、軟石（支笏噴火溶結凝灰岩）が発見され、1875（明治 8）年からは石山で本格的な採掘が始まった。大正時代にコンクリートが登場するまで、その人気は非常に高いもので、現在では、貴重な石材となっている。1876（明治 9）年、お雇い外国人だったエドウィン・ダンが真駒内に牧牛場（後の真駒内種畜場）を開き、家畜飼育の試験や指導、亜麻などの栽培、西洋農具の技術指導、乳製品の製造や食肉の加工指導などを行い、北海道における畜産業の発展に大きく貢献した。1880（明治 13）年から徐々に藻岩下、澄川、藤野、常盤、駒岡への入植がはじまり、1898（明治 31）年には紀伊出身の屯田兵だった小村亀十郎を中心に、現在の白川の開拓が始まった。

1918（大正 7）年には白石から定山溪まで 6 駅 29.9 km の鉄道が開通し、「定鉄」と親しまれた定山溪鉄道は、輸送や人々の生活の足として 1969（昭和 44）年までの約半世紀にわたり活躍した。

1946（昭和 21）年、真駒内種畜場が米軍に接收されて、第 11 空挺師団が基地「キャンプ・クロフォード」に駐留し、返還後は自衛隊の駐屯地となっている。1961（昭和 36）年に豊平町が札幌市と合併、1972（昭和 47）年の札幌市政令指定都市への移行に伴い、南区が誕生した。



## 【西区】

1857（安政4）年、山岡精次郎、大竹慎十郎、永田休蔵ら幕府旗本の武士20人と従者たちが発寒の稲荷通沿い付近に入植し、農作物を栽培しながらの開拓を始めた。1871（明治4）年には越後から森三吉らがベッカウス（現西野）に、開拓使がつくった辛未一ノ村（しんびいちのむら）の44戸からそれぞれ八軒、十二軒（現中央区宮の森付近）、二十四軒に移住し、さらに翌年には仙台藩白石城主・片倉小十郎の家臣らが宮の沢地区に移住した。1874（明治7）年に屯田兵例則が制定されると、1875（明治8）年には宮城県仙台亙理藩、青森県斗南藩、山形県庄内藩の士族たちが琴似地区（現 琴似本通沿い）に、翌年には発寒地区（現 稲荷線沿い）に入植した。1886（明治19）年までには春木屋孝造ら山口県人が平和地区に、前鼻村七ら広島県人が西野地区に、さらに伊藤太治兵衛ら福井県人が福井地区に入植し、荒れ地に琴似発寒川などの水を引いて農業用水路を完成させるなど、札幌で有数の米作地帯を築き上げていった。

主に旧仙台藩士や旧会津藩士からなる琴似屯田兵は、当時、琴似屯田兵村として琴似地区（現 西区役所、琴似神社付近）に第一大隊第一中隊本部が置かれ、射撃訓練場や208戸の屯田兵屋が建てられた。屯田兵制度が廃止される1904（明治37）年まで彼らによる開拓は進み、発寒・八軒地区の牧畜、山の手地区の畑作など地域の特性を生かした農業が行われ、現在の西区の基礎を築いた。

1925（大正14）年、北海道農事試験場が八軒の琴似発寒川沿いに移転設置されましたが、現在その跡地は農試公園として幅広く利用されている。

1942（昭和17）年、町制施行により琴似村が琴似町、1951（昭和26）年には手稲村が手稲町となり、1955（昭和30）年には琴似町が札幌市と合併し、さらに1967（昭和42）年に手稲町が札幌市と合併した。1972（昭和47）年の札幌市政令指定都市への移行で西区が誕生したが、人口の増加により1989（平成元）年、西区から手稲区が分区した。

## 【手稲区】

1857（安政4）年、中川金之助、中島彦左衛門らが下手稲村星置に住み出したと言われている。1872（明治5）年、上手稲村（現宮の沢、西宮の沢、西町、西野、平和の付近）に仙台藩白石城主・片倉小十郎の家臣である三木勉が入植し、時習館（現手稲東小学校の前身）を建設した。この頃からサンタロペツ（現富丘）通行屋（駅通）や軽川（がるがわ／現 手稲本町）は、小樽から札幌への物資輸送の重要な基点だった。1881（明治14）年には山口県人の宮崎源次右エ門と野村葆が入植して山口村を開き（現山口）、1884（明治17）年には広島県人が山口村（現星置）に移住した。

1882（明治15）年、トノサマバツタの大群が札幌に飛来し、農作物に大きな被害をもたらした。駆除のため、バツタやその卵を集めて土に埋め、さらに大きな土まんじゅうを作り、「手稲山口バツタ塚」が作られた。1886（明治19）年に新川大排水（現 新川）が開削され、農耕地の開拓が進んでいった。1894（明治27）年には旧加賀藩主・前田利嗣が軽川（現・前田）に前田農場を設立し、酪農を始めた。また、小樽の稲積豊次郎が現・稲積で稲積農場を始め、でんぷん工場の経営や飼料作物や水稻などの栽培を行った。山口地区では、大正7（1918）年頃から砂地を生かした山口スイカが評判になったが、1980（昭和55）年の大冷害により損害を受け、冷害に強いカボチャの栽培が始められ「大浜みやこ」が誕生した。

1912（明治45）年、小学校の教師と子どもたちによって新川流域で手稲遺跡が発見、本格的な発掘調査の結果、縄文時代のものであり、出土した土器は「手稲式土器」と呼ばれるようになった。

1891（明治24）年、星置で農業をしていた鳥谷部弥平治が偶然金鉱脈を発見し、その後石川貞治が鉱業権を取得して手稲鉱山として開発を始めた。昭和3（1928）年に広瀬省三郎が権利を得て、さらに1935

(昭和 10) 年、三菱鉱業と共同経営を開始した。しかし次第に衰退し、1971 (昭和 46) 年に閉山した。  
1967 (昭和 42) 年、手稲町は札幌市と合併、1972 (昭和 47) 年の札幌市政令指定都市への移行に伴い、西区が誕生した。その後人口増加により、1989 (平成元) 年に西区から手稲区が分区した。

<参考文献>

・各区ホームページ



## 6) 鮮やかな四季の移り変わりと市民の暮らし

札幌市の四季の移り変わりは鮮明である。雪解けが始まる4月頃から少しずつ春の陽気が見られ、5～6月にかけて新緑が芽吹く。夏は比較的梅雨が見られず真夏日が少ないため過ごしやすく、7月～8月中旬までに一気に夏の動植物が活発になる。8月中旬から気温が下がり始め、9月～10月には寒暖の差によって美しい紅葉が市内各地で見られる。10月末には初雪が見られ、冬季札幌市では年間6メートルもの雪が降るが、180万人以上の人がいる大都市で、これほど多くの雪が降る都市は世界でもめずらしい。そんな中、昔から市民は市街地を中心に季節ごとの暮らしを楽しんできた。

札幌では5月の連休のころ、一斉に桜や梅の花が咲き出しお花見のシーズンとなる。現在、お花見の名所として市民でにぎわう円山公園に、1875(明治8)年に北海道神宮(旧札幌神社)の表参道に150本の桜が植えられたのが始まりだった。花見に近郊の人々が訪れるようになったのは、明治10年代末くらいといわれ、1923(大正12)年に路面電車の路線が円山公園まで延伸されてからは、花見のころ1週間は花見特別輸送が設定され多くの人を円山公園へ運んだ。

1872(明治5)年に札幌神社(北海道神宮)の例祭が6月15日に決定され、その後現在も毎年札幌まつりが開催され多くの市民を楽しませている。札幌まつりで大人から子どもまで人気があったのが、見せ物小屋で1892(明治25)年に始まり、1899(明治32)年に創成川河畔に並ぶようになった。1901(明治34)年の火事をきっかけに、会場が中島公園に移され、現在でも札幌まつりの時には露店が所狭しと立並び、市民でにぎわっている。

1年を通して市民が余暇のため訪れる場所として定山溪温泉があるが、豊平川とその周りに広がる紅葉が美しい秋には、特に多くの市民が訪れる。1866(慶応2)年修験僧・美泉定山がアイヌの人々の案内で泉源と出会った時に始まり、幾多の困難を乗り越え温泉の礎を築いた定山の功績から、この地が「定山溪」と命名された。1918(大正7)年には定山溪鉄道が開通し、札幌市街地から定山溪まで多くの市民を運んだ。

大雪が降る中での冬の生活は、交通・運送をはじめ様々な面で大きな影響を受けるが、そんな中でも市民は雪を楽しみ、雪と上手に暮らす技術を生み出してきた。

札幌市でのウィンタースポーツは、1908(明治41)年に札幌農科大学(現北海道大学)にドイツ語教師のスイス人ハンス・コラーがノルウェー式の二本杖スキーを紹介し、興味を持った学生はコラーの一台のスキーを借りて滑ったとされている。今では、藻岩山スキー場や盤渓スキー場、札幌国際スキー場など身近でスキーを楽しむことができる施設が整備され、市民の冬の楽しみの一つとなっている。

1950(昭和25)年に第一回が開催された「さっぽろ雪まつり」は、太平洋戦争後、地元の中・高校生が6つの雪像を大通公園に設置したことをきっかけに始まったが、現在では世界中から「さっぽろ雪まつり」を見に観光客が訪れるまつりへと成長を続けている。

馬そりから始まった札幌の除雪は、1946(昭和21)年にアメリカ軍から借用したブルドーザーで機械除雪を始め、1972(昭和47)年のオリンピック開催をきっかけに約400台の除雪機を導入し、無事にオリンピックを成功させ、今もその技術を高めている。また、車両の前後に取り付けた、竹のササラを利用した除雪装置で路線の雪を掃き飛ばし、積雪が線路の障害にならないように冬の路面電車線路を守っているササラ電車は、札幌の冬を彩る風景の一つとなっている。[※今後の文献調査、ヒアリング、ワークショップ等により追記予定\(イベントなど\)](#)。

<参考文献>

- ・さっぽろ雪まつり公式HP／・さっぽろ文庫16 冬のスポーツ／・さっぽろ文庫47 雪まつり
- ・さっぽろ文庫22 市電物語





市民スキー場(藻岩山)1959年  
出典：札幌市公文書館



第一回雪まつり「熊」  
出典：札幌市公文書館



ササラ電車  
出典：札幌観光写真ライブラリー